



創立して38年。「あけぼの会」は、  
これからも闘病の支えになりたいと、強く願っています



あけぼの会 会長  
**ワット隆子さん**

● 聞き手 白井美樹 (ライター)

ワット隆子さんは、37歳のときに乳がんが発覚し、手術を受けた。その自らの体験をきっかけに、1978（昭和53）年、乳がん体験者の会「あけぼの会」を設立。現在では会員が3000人を超え、支部の数も29にのぼる日本最大の乳がん患者支援団体の会長を務めている。あけぼの会の活動は多岐にわたるが、乳がんの早期発見、早期治療の啓発運動である「ピンクリボン運動」を、広く世間に認知させた実績でも知られている。そんなワットさんに、会の設立の経緯や、運営実態、近況などについて語ってもらった。

### 自己検診で気付いた 「しこり」

— 乳がんだと分かったときは、どのような状況だったのですか？

**ワット** 5年間ニューヨークに住んでいたのですが、日本に帰ってきて2カ月目のことでした。アメリカで息子を産んだときに、婦人科の先生から乳がんの触診法を教えていただいていたので、月に1回自己検診することにし

ていたのです。すると、ある日小さなしこりに触れたので、すぐに近くの日赤医療センターに行き、検査を受けたのです。

— 診断では、医師からどのようなことを言われましたか？

**ワット** 触診の後、マンモグラフィ検査の結果を見ながら、医師は「確かに小さなしこりがありますが、90%良性だと思うので、しばらく様子を見る

## PROFILE ●わっと・たかこ●

1940年旧満州国奉天に生まれる。1977年乳がんの手術を受ける。1978年自らの体験を生かして、乳がん患者、体験者の全国的なセルフヘルプグループ「あけぼの会」を組織。1987年エイボン女性教育賞、1988年保健文化賞、2000年テレサ・ラッサー賞を受賞。『がん患者に贈る 愛と勇気の玉手箱』（同友館）、『ワットさんのALS物語』（ヴィゴラス・メド）など著書多数。

ことにしますか？」と聞きました。でも、私は100%良性というのだければ、納得がいきませんでした。そこで、さらに組織検査もしてもらい、その結果、悪性だと分かったのです。しかも、手術を受けてみると、腋下线パ節に2カ所も転移していたことも分かりました。

— 医師の言う通りに様子を見たりしていたら、もっと重大なことになっていたらかもしれないですね。

**ワット** たぶん、3カ月後に行っても早期の乳がんだったと思いますよ。ただ、ここが大事なところで、「良性だ」と思うけれど、3カ月後にまた検査に来てください」と医師から言われて、果たして本当に行くでしょうか？ 多くの女性は行かないのでは？ しこりは痛くもないし、血も出ないし、外から見ても分からないですからね。

私の場合は、その場で白黒つけたい性格だったので、徹底的に検査することにしたのです。自分の命にかかわることなので、しつこく医師に聞いたりするのは恥ずかしいことではないし、遠慮したりしている場合じゃありません。乳がん経験者の話を聞くと、早期発見につながるのに、もう一步のところで機会を逃して、進行してしまう

2、3回通って実感したのは、「医師は本当の意味で私の気持ちを理解してくれないで、安定剤をくれるだけ」というむなしさでした。そのときに、「私が見たい人は、医師ではなくて、同じ体験をして不安を抱えている人たち」だと分かったのです。

— あげぼの会はどのような経緯で設立されたのですか？

**ワット** 私はものを書くことが嫌いではなかったのですが、まずは新聞に投書をしました。「乳がんの手術をした者同士が集まって、話し合う場を持ちたい」と願っているのだが、どうだろうか」と呼び掛けたのです。すると、まずは30人の賛同があり、そのうちの17人が集まることになりました。そして、みんなで「あげぼの会」という名前を決めて、機関誌を発行したり、電話相談を受けたり、各地で集会を開いたりな



ケースがあつたりします。

**同じ悩みを分かち合える場をつくらうと思った**

— 乳がんの手術後、患者の会をつくらうと思った訳を教えてください。

**ワット** 手術で病巣をきれいに取ったとしても、がん患者は、誰でも「再発するのでは？」という不安や恐怖に襲

われるものです。私も、術後、3、4カ月後くらいから、大きな不安に取りつかれるようになりました。

そのとき、娘は7歳、息子は4歳でしたが、そんな幼い子どもたちを残して私は死ぬ？ と不安になったのです。気持ちは落ち込み、心配なことばかりがグルグルと頭の中をめぐるようになったので、精神科に通うようになりました。

どの活動を始めたのです。

発足して半年弱の間に、いつしか会員は400人を超えており、第一回の全国大会には、200人の乳がん患者や体験者が集まりました。その後も、年を追うごとに会員は増え続け、一時は4500人近くになりました。

— このように多くの人に賛同されるようになった理由は、どのようなところにあると思われますか？

**ワット** 発足当時は、がんは周囲にあまり語られない病気でした。患者はみんな再発への不安を抱えています。その気持ちを医師に言っても十分に対処してくれません。そして、定期検診でがんの再発はないと言われても、それで完全に不安が解消されるわけでもありません。その不安な気持ちを、患者会に来ればぶつけることができます。みんなと分かち合うことができます。たとえ再発したとしても、「自分はひとりではない」と思えることは、どんなに精神的な助けになるかしのれないのです。

また、旅行などの企画もありますが、乳がんの手術で乳房を切除していても、あげぼの会なら温泉に行つて、お風呂を貸切りにして入ることもできま



事務局でスタッフの齋藤純代さんと

す。

このように、あけぼの会は、長年、会員の不安を取り除き、分かち合う役目をしてきたと自負しています。

### 昔よりも強くなった患者たち

今年で38年目を迎えたそうですが、長年運営をされてきて、乳がんの患者さんたちに何か変化はありましたか。

**ワット** 時代の変化とともに、がん患者の意識が変わってきていますね。インターネットが発達して、ネット上でドクターに相談できるようになったり、患者の悩みにコメントできたりするサイトも増えました。また最近では、がん拠点病院ができて、専門医が患者の相談を受けるようにもなりました。これまでのように、患者会だけが心のよりどころだった時代は終わつたように思います。

また、患者さん自身も、昔よりもずっと強くなつてきていると思います。

—どのような点で強くなつていのでしょうか？

**ワット** かつて日本では、医師は患者や家族に、がんであることを隠すのが普通でした。ところが、最近ではつきりと告げる時代になってきており、それを知った患者も、周囲の人に話すようになっていきます。自らがんであることを発表する著名人も、多くなっていますよね。そういう時代になったので、患者自身が、強くならざるを得ないということがあつていでしょう。

日本の女性はその急速な変化についていって、逃げないで気丈に受け止めており、私はとても立派だと思えますね。立派さを貫いて、自分が納得するまで医師に質問したり、調べたりして、がんと闘つてほしいと思います。

りも、悩んでいることなのですが、これまで何度も会長職を辞めたいと思つても、組織が大きくなり過ぎたために、まとめ役を引き継いでくれる人がいないのです。

2007（平成19）年には、会員数が4500人になる一歩手前になっていました。そこで私は勇断をし、活動が円滑にできていた13の支部に独立してもらつたのです。私も後期高齢者な

ので、だんだん力が衰えてくるのを感じたからです。まだしつかりと活動が根づいてない地方の支部もあります。が、ゆくゆくは、地方ごとに独立して、全県のあけぼの会が独立する時がくると信じています。

—活動を続けてきた中で、バックアップしてくれる企業も増えたようですね。



あけぼの会作成のレター「AKEBONO NEWS」

### 信頼を築けたことを誇りに思う

—38年にわたって、あけぼの会を率いてきて、苦勞されたことはありますか？

**ワット** あけぼの会は、全国的な大きな組織になっています。苦勞というよ

**ワット** 私は面倒臭いことが嫌いなので、あけぼの会を、寄付をもらうためにNPOにしたりはしませんでした。でも、化粧品メーカーのエスティローダーさんは、ピンクリボン運動の一環で00（平成12）年に東京タワーをピンク色にライトアップしたときに、会員が協力したことがきっかけとなって、毎年寄付をくださるようになっていきましたね。

大きな大会を開くときには、下着メーカーのワコールさんなどが協力してくれます。その際には、乳がん患者用の下着のブースや、情報を提供するブースなどが会場に並びます。

製薬会社は、抗がん剤を高い値段で売っていたりするので、私はあまり好ましく思っていなかったのですが、最近はとても仲良くしています。薬のことが分からなかったら教えてくれるし、いろいろな薬を使つても効かなかった患者さんが、新薬を使つたら



しかすると効く可能性も否定できませんから。

全国で講演会も行いますが、著名な医師が「あけぼの会なら」と、講演を快く引き受けてくださいます。このような信頼を、築いてこられたことに関しては、大いに自慢したいと思っています。

### 家族みんなでALSの夫を支えた6年間

「ところで、ワットさんは近年、イギリス人のご主人を、ALS（筋萎縮性側索硬化症）という難病で亡くされました。つらく、大変な思いをされたのではないのでしょうか？」

**ワット** 夫がALSの診断を受けたのは2005（平成17）年11月のことでした。ALSは運動神経が侵され、体の機能が停止していき、遅かれ早かれ死に至るといふ原因不明の病気で。

6年間は、ほんとうに疲れ果てる日々でした。私はあけぼの会の仕事もあつたので、なんと25回も日英を往復しました。ただ、娘と息子が全てを差し置いて、父親の看病に身を尽くし、私もそれまで多忙過ぎてよい妻ではなかったことの罪滅ぼしができ、家族が一体となることができました。その点では、この6年間は、貴重なありがたい時間だったと思っています。

「そういえば、昨年、ALSの認知度を高めるために、世界中で氷水をかぶるか100ドルを寄付するという、「アイスバケツ チャレンジ」というチャリティーが流行しましたよね。」

**ワット** そのチャリティーは、息子もやっていたようですが、私はあまり賛同する気になれませんでした。

ALSは、どんな人間としての機能が失われていくみじめな病気です。

それまで一度も入院したこともなく、人一倍活動的で元気だった夫に、まさかそんな不治の病が起こるなんて思ってもいませんでした。ちなみに、この病氣は別名ルー・ゲーリック病といって、アメリカの野球選手がなったことで有名です。

夫の場合、当初の診断では、余命6カ月といわれました。でも、故郷イギリスのロンドンで、結局6年間にわたる闘病を続けた後に亡くなりました。

「ご主人は、とても生命力の強い方だったのですね。」

**ワット** それもありますが、家族が丸となって、深い慈愛を持って看病した賜物でもあると思います。

発病したとき、夫は主にイギリスで生活をしており、私は日本、娘はタイ、息子はアメリカにいました。それが、夫がイギリスで医療を受けることに

その病氣にかかった人や家族の本当のたいへんさやつらさは、こんなことでは分かるはずがないと思いました。それなのに、まるでショーのように健康な人が笑いながらやっているのを見ると、抵抗を感じましたね。現に、一過性の運動で、もう今ではあまり、ALSのことが話題にのぼることはないじゃないですか。

### その人の人生をたたえることが最大の励ましに

「ALSのような難病にかかったり、がんの末期を迎えたりした人に対して、どのような声掛けをしてあげたらいいと思われませんか？」

**ワット** 「がんばれ」とは声を掛けられないですね。なぜなら、治らない病気だからです。

あるとき、乳がんで亡くなりそうの方のご主人から、電話がありました。

なったことで、バラバラだった家族がロンドンの夫の元に集結したのです。マンションを借りて、みんなで夫の容態の変化を見守り、幾度もの急変に、対処しました。病院やケアセンターで付き添って眠った夜も数知れません。



Watt-Family-Christmas-2006 The South Bank, near the London Eye.

「妻と代わるので、話を聞いてやってください」というのです。すると、その女性は電話口で「会長さん、私はちゃんとやりましたよね！」と何度も訴えかけてきました。おそらく、負けずになんを立派に闘い抜いたということを確認してほしいのだと思います。

この出来事は、私の心に深く残り、天国に旅立っていく人には、その人の生きざまをたたえてあげることが大事だと思っています。「あなたは立派だった!」「子どもも立派に育て上げたじゃない!」などと声を掛けて、生きた証を褒めたたえてあげるのがいちばんだと感じています。

### 体験談を伝える場をつくって

「今後、あけぼの会としてやっていきたい取り組みは、何かありますか？」

**ワット** 間違った医療法を信じて実行

したり、迷ったりしているうちに、がんが悪化した患者さんや、亡くなった患者さんの遺族の方たちを救うことができばと思っています。

具体的には、がんの放置療法を行ったことにより、早期の助かるはずのがんが悪化したり亡くなったりしている人がいます。その被害にあった人たちの会をつくって、相談したり、体験を話したりする場があればと思います、現在多くの人の知恵を集めて検討を進めているところです。乳がん患者の会である、あけぼの会だけでなく、卵巣がん患者の会や医師とも密にコンタクトをとっています。

—最後に、保健師さんたちに何か期待することがあれば教えてください。

**ワット** 保健師さんは、地域の人を集めて、乳がんの早期発見のための、教育活動をしてきています。乳がん触

診モデルを使って触診のやり方を教えたり、医師によるセミナーを開いたりしています。そんなとき、あけぼの会の会員を呼んで、体験談を話す機会を設けてくれていた地域もあります。なので、保健師さんと私たちは、とてもいい関係なのです。

「早期に手術をして元気になった」といった体験者の話が、乳がんから命を守るためにはいちばん役立つと思います

す。あけぼの会の会員は、全国にいたので、どんだん声を掛けてもらって、利用していただきたいと思っています。私たちは、いつでもお役に立ちたいと考えていますので、よろしくお願ひします(笑)。



あけぼの会の入会は電話、FAX、e-mailのほかホームページからも行っています

【あけぼの会事務局】

〒153-0043 東京都目黒区東山3-1-4-701

TEL : 03-3792-1204 (月～金 10 : 00 ~ 16 : 00) FAX : 03-3792-1533

<http://www.akebono-net.org/>

e-mail : [akebonoweb@m9.dion.ne.jp](mailto:akebonoweb@m9.dion.ne.jp)